

文法概説

動詞

不定詞

ウルドゥー語の動詞不定詞は、例外なく **-nā** という語尾で終わります。辞書には、この不定詞しか載らないので注意が必要です。たとえば、پڑھنا(**parḥnā**)は「読む、学ぶ」、

لکھنا(**likḥnā**)は「(文字を)書く」となります。

動詞不定詞には「～すること」という名詞的用法もあり、その場合こちらで説明した **-ā** で終わる男性名詞と同様の変化をします。

語幹

動詞不定詞から **-nā** を除いた部分を語幹と呼びます。たとえば、動詞 **parḥnā** の語幹は、**parḥ**、**likḥnā** の語幹は、**likḥ**となります。動詞語幹を用いる表現については、別に説明します。

現在分詞

動詞語幹に **-tā / -tē / -tī** を付加して、現在分詞を作ります。全ての動詞に共通の変化です。ここでも、変化の原則は **ā**(男性単数)、**ē**(男性複数)、**ī**(女性)の変化です。

現在分詞を使う表現には、いわゆる現在形、現在も継続する動作の反復などがあります。ここでは、اُٹھنا(**uṭḥnā**)「起きる」、دیکھنا(**dēkhnā**)「見る」という動詞を例に、現在形の人称変化を見てみましょう。

現在形の変化 (主語が男性の場合)

	単数	複数
一人称	میں اُٹھتا ہوں maiṇ uṭḥtā hūṇ 私は起きる	ہم اُٹھتے ہیں ham uṭḥtē haiṇ 私たちは起きる
二人称	تم اُٹھتے ہو	آپ اُٹھتے ہیں

	tum uṭ ^h tē hō 君は起きる	āp uṭ ^h tē haiṇ あなたたちは起きる
三人称	وہ اٹھتا ہے vō uṭ ^h tā hai 彼は起きる	وہ اٹھتے ہیں vō uṭ ^h tē haiṇ 彼らは起きる
	单数	複数
一人称	میں دیکھتا ہوں maiṇ dēk ^h tā hūṇ 私は見る	ہم دیکھتے ہیں ham dēk ^h tē haiṇ 私たちは見る
二人称	تم دیکھتے ہو tum dēk ^h tē hō 君は見る	آپ دیکھتے ہیں āp dēk ^h tē haiṇ あなたたちは見る
三人称	وہ دیکھتا ہے vō dēk ^h tā hai 彼は見る	وہ دیکھتے ہیں vō dēk ^h tē haiṇ 彼らは見る

現在形の変化（主語が女性の場合）

	单数	複数
一人称	میں اٹھتی ہوں maiṇ uṭ ^h tī hūṇ 私は起きる	ہم اٹھتے ہیں ham uṭ ^h tē haiṇ 私たちは起きる
二人称	تم اٹھتی ہو tum uṭ ^h tī hō 君は起きる	آپ اٹھتی ہیں āp uṭ ^h tī haiṇ あなたたちは起きる

三人称	وہ اٹھتی ہے vō uṭḥtī hai 彼女は起きる	وہ اٹھتی ہیں vō uṭḥtī haiṅ 彼女らは起きる
	单数	複数
一人称	میں دیکھتی ہوں maiṅ dēkḥtī hūṅ 私は見る	ہم دیکھتے ہیں ham dēkḥtē haiṅ 私たちは見る
二人称	تم دیکھتی ہو tum dēkḥtī hō 君は見る	آپ دیکھتی ہیں āp dēkḥtī haiṅ あなたたちは見る
三人称	وہ دیکھتی ہے vō dēkḥtī hai 彼女は見る	وہ دیکھتی ہیں vō dēkḥtī haiṅ 彼女らは見る

形容詞

ウルドゥー語の形容詞は、その語尾が ā で終わるものと、そうでないものに分類できます。語尾が ā で終わる形容詞は、語尾が ā で終わる男性名詞と同じように、修飾する名詞の性・数によって、ā の部分が、ē、ī と変化します。語尾が ā で終わらない形容詞は、語尾変化をしません。以下の例を見てみましょう。

(ye kitāb bahut mahingī hai.) - یہ کتاب بہت منگی ہے۔

この本は、とても高い。

(ye baṛā kamrah hai.) - یہ بڑا کمرہ ہے۔

これは大きい部屋です。

(ye sab accḥē laṛkē haiṅ.) - یہ سب اچھے لڑکے ہیں۔

この人たちはみんな、いい子供たちです。

(āp ka sawāl muškil hai.) - آپ کا سوال مشکل ہے۔

あなたの質問は、難しい。

(hamārā raušan mustaqbil hai.) - ہمارا روشن مستقبل ہے۔

我々には明るい未来がある。

疑問詞

ウルドゥー語の疑問詞には次のようなものがあります。疑問詞を見ると、すべて/k/の音で始まっていることがわかると思います。これらの疑問詞は、一般的な名詞と同じように、主格と後置格の形を持つものがあります。また、原形の語尾が ā で終わっている場合、語尾が ā で終わっている形容詞と同じ変化をします。

これら疑問詞を用いる文では、日本語と同様に、文末は平叙文(普通の文)と同じとなります。

	主格	後置格(単数)	後置格(複数)
誰	کون kaun	کس (کو) kis (ko) کس (نے) kis (ne)	کن (کو) kin (ko) کنوں (نے) kin ^h ōṅ (ne)
誰か	کوئی kōī	کسی (کو) kisī (ko)	
何	کیا kyā	کس (کو) kis (ko)	
いつ	کب kab		
どこ	کہاں kahāṅ		
どの方向に	کہر kid ^h ar		
どのように	کیسا kaisā		
なぜ	کیوں kyōṅ		
いくら(量)	کتنے kitne		
どのくらい	کتنا kitnā		
どちら	کونسا kaunsā		

買い物をする、値段を尋ねる

南アジア各国では、交渉により、ものの値段が変わる場合があります。値段が高いと思えば、交渉の余地がある場合がしばしばあります。最近では、価格が決まっている店が多いので、値引き交渉に応じる店は減ってきましたが、それでもタクシーや、リキ

シャなどの交通機関では、日本と異なり、メーターを使わない場合が多いため、乗る前に価格交渉をする必要があります。また、土産物などの店も、値段交渉に応じる店は少なくありません。自分が納得できる値段になるまでには時間がかかるかもしれませんが、腰を落ち着けてじっくりと、値段交渉を楽しむくらいの気持ちで臨んでみましょう。

ウルドゥー語の数字

値段交渉をするためには、数字を知らなければなりません。ウルドゥー語の数字は、日本語とは異なる構造になっています。

たとえば、1の位が9の数字は、「○-1」という考え方をします。たとえば、49は、50-1、89は、90-1という言い方をします。

2桁の数字は基本的に1の位を先に言い、あとに **10** の位を言います。たとえば、**48** は **artālis** と発音しますが、**ar** の部分が8を、**tālis** の部分が **40** を示します。**8** は、**āṭh**、**40** は、**cālis** と言いますが、これらの数字が組み合わせられることにより、多少の音変化を起こして、上記の **artālis** が得られるという考え方です。この音変化のために、ウルドゥー語の数字は日本語に比べて非常に複雑だと考えられていますが、その構造は非常に単純です。まずは、生年月日や年齢など、自分に関係がある数字から覚えてゆきましょう。